

三〇 那須系図及び烏山城主代々（那須烏山市蔵「中村家文書」）

烏山城主の歴代が記されている。

（表紙ウハ書）

一 那須系図

〔杉並平野蔵〕
（異本）

鎌足内大臣ヨリ十四代

須藤権守貞信卿始テ那須ヲ領ス、貞信ヨリ五代須藤次郎資房始テ在国、那須武者所、上那須高館・福原住、資房一子無キニヨリテ弟宗資継家、其子資隆子与一宗隆、形部太輔資氏子資之ヨリ資永迄六代、是上那須代々、断絶、資氏二男沢村五郎資重、応永廿二癸未年八月、下ノ庄興野実任館エ落給、上杉乱ヨリ兄資之下不和ニシテ烏山エ移ル、応永廿四丁酉年烏山ノ城築ク、

烏山城主代々

- 一、沢村五郎資重
- 二、越後守資村
- 三、伊予守資実
- 四、右衛門太輔資房
- 五、老岐守政資

六、高資

七、修理太輔資胤

八、修理太夫資晴

此時小田原氏政ト一身、秀吉公ヨリ烏山城召ラル、天正十八壬寅也、此時三資晴ハ同国佐良土エ流ル、幕下大田原・芦野・伊王野・黒羽・福原・千本六人ノ者、秀吉ヨリ分地拝領、烏山ト七騎也、資晴一子左京太夫資景一子美濃守資重一子無クシテ、養子遠江守資祇烏山エ移ル、三代福原住ス、烏山之城主八代目那須資晴公、佐良土ニ住ス、法名休山、御子左京太夫資景御子美濃守資重御養子那須遠江守資祇、関白秀吉公奥州御出馬之時、那須太郎資景五歳ニテ、太田原ニテ御目見、此時福原五千石拝領、京都エ御帰之資晴、伏見之御城御預ケ有之、分地五千石拝領、都合一万石、此時之供人ハ大田原河内・角田内匠・高瀬大蔵・森田織部是四人也、皆千石ツ、分地ニテ、都合一万四千石、家老衆大久保左衛門・池沢左近・町井源左衛門、資景之御子資重、式代資重御死去ノ時九千石上リ地、残地五千石御隠居資景領ス、御病氣ニ付、遠江守養子トス、此以後七千石御加増、都合一万式千石也、

尾張内府 織田信雄
天正十八年烏山城請取住ス

九、成田下総守氏国 天正十八年ニ拝領、

十、同 左衛門氏長

十一、同 新重郎康高

同 山城守忠胤

十二、同 左馬頭康基

以上四代三十三年住、元和八^壬 戌年元和八^壬

同 佐渡守忠高

戌年鳥山地召上ラル、

同 山城守忠喜

十三、松下石見守忠房

下総国張^{マヅ}ヨリ国替ニテ移ル、三年住ス、元和

同 佐渡守忠成

九^癸 亥 拝領、寛永三^丙 寅年三春江国替、

同 佐渡守忠保

十四、堀 美作守親良

寛永三^丙 寅年拝領、

十五、同 美作守親昌

寛文十二^壬 子年信州飯田^ニ国替、寛永ヨリ二代

【補注】

四十六年住ス、

この古記録は、幕末期嘉永元年（一八四八）十月八日に死去した大久

十六、板倉内膳正重義

寛文十二^壬 子年拝領、

十七、同 内膳正重重

天和元年武州岩付^ニ国替、二代九年住ス、

保忠保までが記され、次の代の大久保忠美の名が記載されていないことを考慮すると、幕末期以降に成立したものと思われる。

十八、那須遠江守資祇

天和元^辛 酉年城地拝領、与一宗隆ヨリ廿一代、

天正十八年ヨリ九十一年ニテ帰移給

十九、同 与市資徳

貞享四年九月廿三日家督相続、同十月十四日城

地召上ラレ断絶、

廿、永井伊賀守直敬

貞享四^丁 卯年二月拝領、元禄十五^午 午年播州赤

穂^ニ国替、十六年住ス、

廿一、稲垣对馬守重富

元禄十五^午 午年拝領、享保十一^丙 午年三月廿一

日志州鳥羽国替、

廿二、同 摂津守重量

廿三、大久保佐渡守常春

享保十一^丙 午年三月廿一日拝領、